

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0670400803		
法人名	有限会社 敬愛会		
事業所名	グループホーム こもれびの家		
所在地	米沢市大字花沢3612-1		
自己評価作成日	平成 24年 2月 23日	開設年月日	平成 15年 7月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 24年 3月 23日	評価結果決定日	平成 24年 4月 10日

(ユニット名 ぽぷら)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たちの事業所は「笑顔が見たい、役に立ちたい」をスローガンに掲げ、常にご利用者様の立場に立った支援を心がけております。また、それまでに歩んでこられた人生に寄り添い、言葉に表現できないご利用者様の思いを捉えることができるよう、居室担当者が主になり職員全員参加でのケアカンファレンスを行っております。ご自宅での生活を続けることは困難な状況になってはしまつたけれど、私たちスタッフの何かしらの支援がご利用者さまの笑顔をひきだし、「ここでの生活も悪くないな」と感じていただけるように日々精進しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも見ることができるように、玄関脇に掲示しております。また、理念一つ一つの意味を考え、同じ捉え方ができるように、スタッフ会議にて話し合い、毎日の唱和を欠かさずに行うことで、意義・目的を共有しております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として挨拶をし、顔馴染みの関係になるように努めています。また、ご近所の方より畑で採れた作物を頂いたり、自主防災組織の一員として、交流をさせていただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議の場を活用し、事例や事案などを聞いて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域推進会議の場を活用し、相談員の方などから頂いた、ご意見や評価について、話し合いの時間を持ち、そこで活発な意見を頂戴して、活かしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進会議へ参加頂いた際や、訪問・電話などで相談させて頂いております。また、相談員の受け入れを行い、関係作りに努めております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての研修会や、毎月のスタッフ会議にて意見交換をし、危険行為に対応するための対応策を話し合っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法についての研修会や、毎月のスタッフ会議にて意見交換し、虐待ゼロに取り組んでおります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の研修会を開催し、全員が理解できるようにしております。また、利用されている方もおります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書も併せて、必要書類の読み合わせを行い、説明しております。また、ご家族の思いに、しっかりと寄添うことができるように、話し合いの場を持っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット毎の玄関に、用紙と投函箱を用意しており、面と向かつては言いにくいことなどを、随時、聞き出せるように考えております。また、面会時には、ご利用者様の近況を報告させて頂くと共に、ご家族の意見を聞き出せるように働きかけ、把握した内容については、連絡ノートで送り、随時、運営に反映できるように取り組んでおります。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	何でも話しやすい(相談しやすい)環境をつくっております。また、スタッフ会議の場などで、率直な意見を聞き出せるように努力をし、意見交換しております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、個々に目標を掲げ、自己評価し、翌月への目標に繋ぎ、頑張れるように、働きかけをしております。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に沿った研修と、職員の段階に応じた研修受講にて、報告書や報告会を利用して、意見交換をし、全職員でのケアの統一や、質の向上に努めております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県主催の研修参加や、GH協会等の交流を図っております。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人・御家族の要望や不安に思っていること等を、しっかりと受け止めることができるように、ゆっくりと話をお聞きしております。また、利用開始の段階で、不足した部分については、面会があった場合に、お話を伺うことで、安心できる環境づくりに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いを、話しやすいものとなるように、場所や時間等を、柔軟に対応しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の申し込みを頂き、面接等を経た段階で、御利用者が、必要としている支援内容と、私たちのGHの支援内容が合致するのかが話し合い、必要であれば、適切であろう機関を、紹介させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御利用者様の思いを傾聴することを念頭に、接しております。また、御利用者様の尊厳を大切にすることを常に声に出し、申し送っております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者様の一番の理解者であり、拠りどころでありますので、面会の際には、御家族様とゆっくり話ができるように配慮しております。また、面会の少ない御家族様には、お手紙や電話等で、近況を報告させて頂いております。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御友人や、御兄弟等の面会があった際うようにには、記念写真を撮らせて頂いたり、御友人との外出の支援等、馴染みの関係が継続できるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の個性を把握し、御利用者様同士の、馴染みの関係が築けるように、配席などに工夫をしております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御利用者様や、御家族様が必要とされた際には、出来る限りの支援をさせて頂いております。また、転居先に、訪問をさせて頂き、情報交換をしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当制とし、担当者が一番の理解者になるように信頼関係を築くように努めております。また、申し送りや、スタッフ会議の場で、意見交換を行い、各々の気づきを話し合い、その人を知るように努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回のアセスメントにおいて、これまでの生活歴をお聞きし、センター方式に落とし込み、ケアプランに反映するようにしております。また、サービスを受けられていた方に関しましては、情報を頂いたり、お電話で相談させて頂いたりして、十分に把握できるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用し、定期的な見直しを行うことで、現状の把握に努めております。できること・支援の方法次第でできることを見極めるように、努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、モニタリングを行い、居室担当者が、本人の思いを傾聴し、ケアプランに反映できるように支援しております。それを基にカンファレンスをし、御家族様の思いや、他職員の意見等を反映させております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が読んでも、わかりやすいように記録することに努めております。記録は、ケアプランに沿ったものとなるように意識し、ケアプランの実施状況に反映できるようになっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生・高校生のボランティア訪問や、御近所の方との、お茶のみの場等、少しでも外からの刺激を受け、楽しみのある生活が送れるようにと考え、支援しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に、協力医より、往診をして頂いております。また、入居前の、かかりつけ医への通院を希望される利用者様には、御家族様からの協力を頂いたり、必要に応じて、お手伝いをしております。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護時に、状況・状態を伝え、必要に応じて、電話で相談させて頂き、連携を図っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、医療機関との情報交換にて、状況の把握ができるように努めております。また、入院先に出向き、看護師さんより、お話を頂いたり、相談員さんとの情報交換をし、退院に向けてのはたらきかけを行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人や、御家族様の意向を踏まえた上で、ホームで、できるケアの内容を説明させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署開催の救急救命講習会に参加し、学習しております。また、避難訓練の際にも、消防署の方より、急変や事故発生時の対応について教えて頂いております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者の主導のもと、年2回の避難訓練を実施しております。また、地域の防災組織にも加入しており、地域との協力体制も整えております。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーに配慮した言葉かけを徹底しております。また、毎日の唱和の中で、意識付けがされており、関わりや言葉遣いへの注意をしております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が、御自身の思いを、言いやすい環境づくりに努めております。常に、一呼吸置いた、ゆとりのある関わりの中で、自己決定できるように支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、各々の生活リズムや、生活スタイルを尊重できるように取り組んでおります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気分で、洋服を選んで頂けるように支援しております。また、行事や外出の時等は、居室担当者と共に洋服を選んだり、マニキュアをつけるなどの楽しみを持って頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の嗜好を考慮し、その日の公告等を参考に、旬の食材に気を配りながら、一緒に考えたり、買物をしたり、調理して頂いております。食後は、食器拭き・台拭き等、各々、役割を持たれております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当にあったユニットが、毎日の献立を作成しております。食事量・水分・塩分・その他の禁食等を考慮しながらバランスの摂れた食事提供を心掛けております。また嚥下の状態に応じた提供の仕方にも配慮しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず実施しております。必要な方に対しては、ケアプランに入れることで、職員の意識付けを徹底し、支援につなげております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄パターンを、排泄表により把握し、必要時には、プライバシーに配慮した声掛けにより、トイレ誘導を行っております。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルトを摂って頂いたり、毎日の体操等で、定期的な排便を誘導しております。必要に応じて、医師に相談させて頂き、排便コントロールを行っている場合もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めずに、その日の体調や、気分に応じて、入浴できるように支援しております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起きる時間や、寝る時間を決めずに、一人ひとりの習慣や体調に応じて、対応させて頂いております。昼寝をされない方には、生活スタイルを尊重しながら、適度な運動を支援する等、させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や副作用を、全職員が理解し、扱えるように徹底しております。また、会議の中で、勉強会を開催し、都度、把握していくことに努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴を把握し、ホームに入居されてからも可能な限り、続けていけるように支援しております。植木鉢を持参され毎日水やりをされている方、塗り絵をされている方等、それぞれに、趣味や嗜好を楽しんで頂けるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と共に、食材を買いに出かけております。また、居室担当者と共に、外食や買物に出掛けたり、散歩やお茶に出掛ける等、されております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所する際に、御家族との話し合いの上、御本人の希望を尊重して、支援しております。金銭管理が可能な方は、御自分で管理されております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に添えるように支援しております。なかなか御自身で、ということが困難になられた方に対しても、居室担当者が、お気持ちを配慮し、お手伝いさせて頂き、年賀状や暑中見舞いのハガキを送らせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じることができるよう、作成の段階から、利用者様と職員とで、一緒に作品づくりを行っております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに腰かけたり、廊下の長椅子で、お話をされたりと、思い思いに過ごせるように配慮しております。冬場は和室のこたつにて、横になられる方もおられ、ゆったりとした時間を過ごされております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が、使われていた物を持ってきて頂くように、入居される際に、お願いしております。お茶碗や、箸、湯呑みであったり、タンスや御家族の写真など、馴染みの物に囲まれた、その人らしさの中で過ごして頂けるように支援しております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの「できること」「わかること」を十分にアセスメントをし、安心・安全に努めた自立支援を心掛けております。		